わたしたちの町の川

月　日　名前

発展（はってん）②

わたしたちの町の川

わたしたちのグループは、学校の近くを流れる緑川について調べました。きっかけは、祖父の「昔はこの川で泳いだものだ」という言葉です。今の緑川で泳ぐ人はいません。なぜ変わってしまったのか、知りたくなりました。

まず、市役所の方にお話をうかがいました。五十年ほど前、町に工場や家が増え、よごれた水が川に流れこんで、川はひどくよごれたそうです。その後、下水道の整備が進み、水はだんだんきれいになってきました。今では、アユも見られるようになったということです。

次に、わたしたちは川の三か所で、水のにごり方を比べました。上流はすき通っていましたが、公園の近くでは、少しにごっていました。また、岸にはペットボトルやビニールぶくろが落ちていて、三十分の間に、ごみぶくろ二つ分も集まりました。

これらのことから、わたしたちは次のように考えます。川の水はきまりや設備によってきれいになってきましたが、ごみの問題は、町に住む一人一人の行動にかかっています。わたしたちにできるのは、ごみをすてないことと、ごみ拾いに参加することです。

祖父が泳いだ川を、いつかまた取りもどせたらよいと思います。

1 □□ の言葉

調べるきっかけになったのは、だれの言葉ですか。

2 川がよごれた原因として書かれているものはどれですか。

ア　工場や家が増え、よごれた水が流れこんだ。

イ　アユが増えた。

ウ　雨が少なくなった。

3 □□ つ分

三十分の間に、ごみぶくろいくつ分のごみが集まりましたか。

4

筆者たちが「わたしたちにできる」と考えていることを、二つ書きましょう。

ぜんぶ　できたら　ほしに　いろを　ぬろう ☆ ☆ ☆

© きりんドリル kirindrill.com